

開院3年半 最先端医療機器と多様な療法の導入、地域医療連携の構築など――

「総合医療の見地から、あらゆる手立てを尽くして認知症を改善する。それが我々の使命です」

認知症患者の退院数が800人を超える――。超高齢化時代が進展し、認知症も増えている中で、成果を上げている病院がある。埼玉県川越市にある認知症専門病院「トワーム小江戸病院」だ。医療法人社団松弘会理事長の済陽輝久氏は「認知症は必ずしも全てが不治の病ではない」と語る。認知症専門病院でありながら最新鋭医療機器を導入する一方、ドッグセラピーや園芸療法といった多種多様な治療法も行う。総合医療に取り組む済陽氏の思想とは？

インタビュー

(医療法人社団松弘会)三愛病院・トワーム小江戸病院理事長

済陽 輝久 Watayou Teruhisa



わたよう・てるひさ

1975年東邦大学医学部卒業。78年まで同大学院整形外科で勤務。日赤医療センター麻酔科、磯子中央病院勤務を経て、85年に三愛病院設立、院長に就任。総合診療科、整形外科、麻酔科を担当。97年医療法人社団松弘会理事長に就任。2008年6月トワーム小江戸病院開院。日本麻酔科学会麻酔科認定医、健康スポーツ認定医、身体障害者認定医。

こういった実体験があったら、この病気にはこの手術が必要でコツはこれだといったことを総合的に学ぶことができたんですね。そして、私が導き出した結論が更なる

全身管理を知る必要があるということでした。――総合診療だ。済陽 そうです。一つの病気に一人の医師が全て把握することはできません。それを

求められる「総合診療」

――済陽さんは「患者さんを改善して自宅に帰す」という理念を掲げて認知症患者の治療に取り組む。認知症専門病院「トワーム小江戸病院」では開院3年半で800名を超える患者を退院させていますね。

済陽 認知症には様々なタイプがあります。これはアルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、その他の三つに大別できるのですが、特に脳血管性の認知症などは早期の治療を施せば家に帰ることができるといって改善させることができるのです。そのためには患者さんの病状の見極めが不可欠です。ところが、現在の医療体制の下では認知症患者さんは精神科で診ることになっていく。そのため、脳出血や脳梗塞、ガンなどについて専門的な知識を持つていない精神科の先生では限界があるんです。――柔軟な対応ができる医療環境が必要ですね。済陽 あまりにも医療の分業化が進み過ぎていているんです。だからこそ私は「総合診療」という理念を掲げて、



患者の尊厳を重視し、愛情込めた医療の提供を目指す「トワーム小江戸病院」

とにかく患者さんの全身を診ることができると体制を整えてきました。

麻酔科として医師の道を歩んできた私は様々な手術に立ち会うことができました。大学を卒業し、2年間の大学病院での勤務を経て、日赤医療センターの麻酔科に入局しました。

ここでは科ごとに縫合の仕方や糸の質などに違いがあることを知り、麻酔科として手術に参加することで医療の実態を見ることができ、医師ごとに力量に差があることを知りました。

め手術室も備えています。

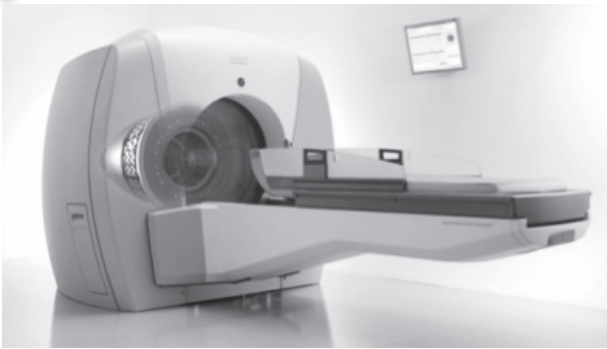
最近一年間でGE社製及びPhilips社製MRIを3台導入して、その内の1台の最新3・0テスラMRI(GE社製)をトワーム小江戸病院で使用しています。このMRIは腎機能の低下などで造影剤を使用できない方でも、ほぼ全身の細い血管まで描出できます。そして画像解析システムに定評のあるAZ社と提携し、そのワークステーションで3次元画像を作成することによって、撮影時間の短縮や鮮明な高分解画像が得られ、早期発見・早期治療が可能となりました。

ドッグセラピー、音楽療法などあらゆる治療法を駆使

――診断ができて初めて患者に合った治療ができる。済陽 全ての認知症患者が不治の病というわけでは

ありません。ですから我々は可能性がある限り、あらゆるチャレンジをしています。トワーム小江戸病院では投薬と精神療法を基本としています。ですが、そのバックアップ機能を果たすのがドッグセラピーや音楽療法、園芸療法、回想療法といったものなん

ポインントは早期発見ですね。済陽 はい。認知症でも治療を受ければ改善するものがあるわけですから、認知症専門病院であるトワーム小江戸病院でも3・0テスラMRIをはじめ、マルチスライスCT、超音波診断装置、消化器内視鏡検査装置、生化学自動分析装置、人工呼吸器、大腸ファイバー、睡眠時無呼吸症候群検査装置など最先端の検査・医療機器をはじめ



最新鋭ガンマナイフ「パーフェクション」

です。

当院には15匹の犬が交代で通って来てくれます。それぞれの犬にそれぞれの特徴がありますので、患者さんには大変な癒しになっているようです。患者さんが犬に触れあい、犬の感触を感じることで、認知症の改善兆候が得られるんですね。

東邦音楽大学とタイアップした音楽療法は精神に活力を与えるだけでなく、発語の訓練としても有効です。地元農家さんからご協力を得て行っている園芸療法も植物を育てることで患者さんの気持ちを安らげることに繋がります。回想療法でも旧友のメッセージや当時住んでいた街を映したビデオレターを見せることで病状が改善されること分かっていきます。

また、当院では理学療法士・作業療法士・言語聴覚士によるリハビリにも積極的に取り組んでいますし、心理面でのフォローをする臨床心理士も3名在籍しています。患者さんの心も身体も健康になり、いつでも家に帰れるようになるためです。

しても群を抜いて精度の高い治療が実践されています。また、機器性能の向上により、従来以上に安全性・治療時間の短縮が実現されました。——ハード面でも新しい取り組みをしているわけですね。ソフトの面ではどんな取り組みをしているのでしょうか。

濟陽 10年12月からアメリカを代表する心臓血管病院「アーカンソー・ハート・ホスピタル(AHH)」と提携し、共同で循環器プロジェクトを

——そのトワーム小江戸病院は外観も含め、内装もホテルのようになっていきますね。濟陽 ええ。多くの病院では入院患者さんの入院環境はワンパターン化されてきました。個室や大部屋の違いを除けば、白い壁の部屋に鉄パイプのベッド。そこで患者さんは入院生活を送っていたんですね。そこで当院では、いかに満足できる入院生活を送っていただくかを考え、今までの価値観から脱皮した病院を作ろうと。ですから、ホテル感覚の建築にして病院らしくないイメージを前面に出しました。エントランスは吹き抜け構造とし、シャンデリアを設置。診察室は応接セットのみとして患者さんに恐怖を持たせないようにしています。このようになりラックス出来る環境を整える事で、患者さんのご家族も何の抵抗もなくお見舞いに来ていただけますからね。しかも、当院では10年5月より東武バスのバス停院内に設置し、バスが直接病院の玄関まで乗り入れるようになりまし。高齢者で車を運転しないご家族も含めて毎



夏祭り打ち上げ花火(スターマイン) 560発を中庭で打ち上げ

——医療スタッフに対する考え方を聞かせてください。濟陽 何より健康が第一です。ですからスタッフが元気になるような取り組みを行います。

スタッフの「健康」を第一とする福利厚生

2012年中には現在検査と外来が一緒になっている棟を検査・検診専門棟にし、新たに外来専門棟を建設する予定です。これにより患者さんの流れをスムーズにして診療の効率化を図ってきたいと思っています。

——医療スタッフに対する考え方を聞かせてください。濟陽 何より健康が第一です。ですからスタッフが元気になるような取り組みを行います。

月1千組のご家族がいらしています。また、当院では栄養・食事療法の一つとして、専門の先生方のご指導の下、ビタミン・ミネラル・イソフラボン・乳酸菌などの栄養素が豊富な機能性食品を多量に取り入れた「健脳食」も実施しています。最新ガンマナイフ・パーフェクションの導入

最新ガンマナイフ・パーフェクションの導入

——日々新しいことにチャレンジしているわけですね。一方の三愛病院ではどうですか。濟陽 三愛病院では埼玉県

——例えば、勤続5年のスタッフにはハワイ、10年のスタッフにはヨーロッパ旅行に招待していますし、毎年夏祭りや運動会、花火大会なども開催しています。

夏祭りでは神輿を担いだり、射的やヨーヨー釣りなどの出店を出しましたし、花火大会では花火職人に依頼し本格的な花火を打ち上げています。震災なので自粛すべきだという声もありましたが、こういう時こそ元気になるようなことをすべきだと。当日は近隣住民の方々や首長さんなどもお越しになりました。

こういった取り組みは患者さんだけでなく、当院で働くスタッフにも非常に良いことだと思えます。ただでさえ、人の命と向き合い緊張感のある業務を日々こなしているわけですからね。元気で明るいスタッフがいることこそ、当院の最大の強みではないでしょうか。

——地元を巻き込めば地域医療体制にもつながりますね。濟陽 はい。だからこそ我々はチーム医療を積極的に推進しているんです。医療の高

下で唯一のガンマナイフ治療施設「さいたまガンマナイフセンター」を2004年に開設しているのですが、ここに11年8月から最新ガンマナイフ・パーフェクションを導入しました。ガンマナイフパーフェクションは、ガンマ線をより高精度(0.1mm・髪の毛1本分)で照射出来るので、正常脳や脳幹周囲の微細な脳神経に極力ダメージを避けて治療が可能となりました。手術困難な脳深部治療でもメスを利いた治療と同等の効果が得られており、他の放射線治療と比較

度化が進み、1人の医師が全ての治療に携わるのには限界があります。各分野の医師が協力し合ってチームワークで患者さんを診察するように心がけています。

ですから、トワーム小江戸病院で対応できない場合でも三愛病院、それから隣接する埼玉医科大学総合医療センターや自治医科大学さいたま医療センターとも連携して治療していただけるようになっていきます。

他にも介護老人保険施設「トワーム熊谷」「トワーム指扇」をはじめ、三愛病院グループの関係会社17社が、医療や介護を提供し地域医療を支えているということになります。

——認知症医療の将来はどうあるべきだと考えますか。濟陽 必要なことは早期発見、早期治療です。そのためには病院、介護施設が連携し、そこで働く医師、看護師、介護士皆がどう協力してどう治療するかが大事なことです。医療の本質は患者さんを治すことです。進化する医療技術を取り込んであらゆる手を尽くすことこそ医療に携わる者の使命だと思っています。